



1. 策定の趣旨

- 上位計画である第六次鹿児島市総合計画における基本目標「魅力にあふれ人が集う 活力あるまち【産業・交流政策】」の実現に向けた戦略。
- 第4期戦略は、訪れる人の感動、暮らす人の幸せをつくる持続可能な観光地となっていくための稼ぐ観光の実現に向けた、事業者・市民・行政など観光に関係する全ての人々が共有するビジョンとする。

2. 本市が観光に注力する背景

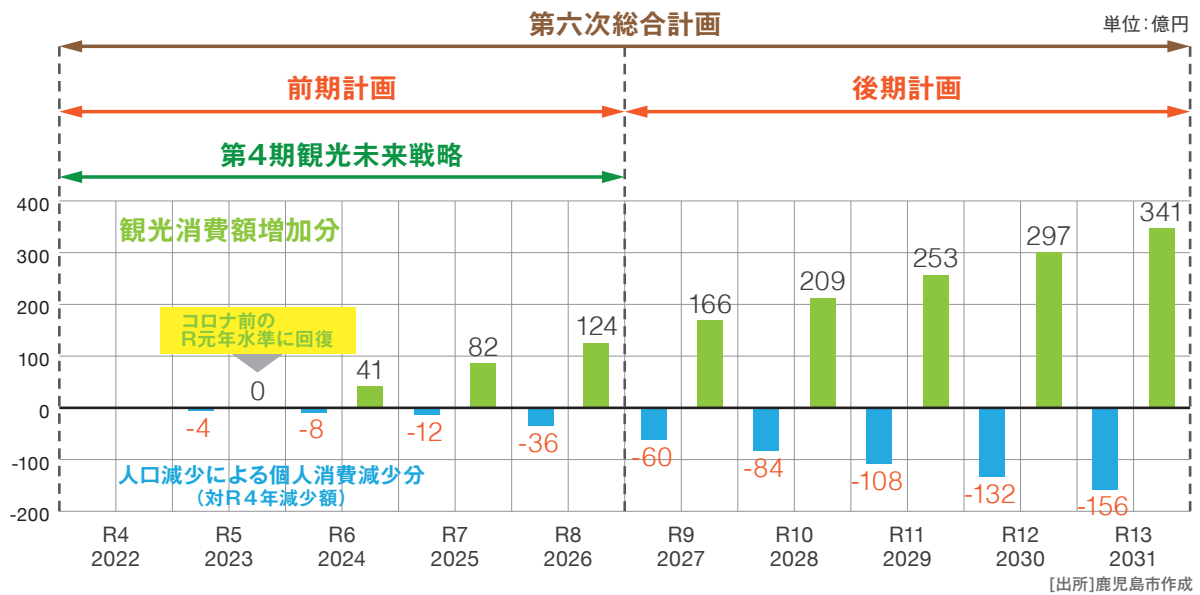
(1)人口減少に伴う個人消費の減少の見通し

- 将来人口は、令和4年から令和13年の10年間で約1.3万人減少する見込み(毎年約1,400人減少)。
- 本市の人口1人当たりの年間消費額(約120万円:総務省の令和2年家計調査年報で算出)から試算した本市の年間の個人消費は、毎年、約16.8億円減少する見通し。(10年後の令和13年には令和4年に比べ約156億円減少)

(2)観光における経済効果

- 観光は裾野が広い総合産業であり、宿泊施設や飲食店、土産品店等の観光関連事業者への直接的な消費の拡大をはじめ、間接的な消費や雇用の創出など、地域経済全体に多大な効果を及ぼすことが期待される。
- 観光を経済成長のエンジンとし、人口減少による個人消費の減少分を上回る観光消費額増を創造し、経済の活性化や雇用確保につなげることが重要。(令和13年には約341億円増)

図1 個人消費減少分及び観光消費額増加分に係る推計の推移



(3)本市の観光の優位性

- 本市は、高次都市機能と豊富な観光資源を兼ね備えた、観光に優位性のある地域であり、このメリットを生かし、高い経済波及効果が見込める観光振興に取り組み、地域経済の活性化を図ることが重要。
- ①個性豊かな地域資源(桜島・錦江湾、歴史・文化、温泉など)の集積
  - ②陸・海・空の広域交通の拠点
  - ③高次都市機能の集積と豊かな自然

## 第2章：観光の動向

### 1. 全国的な観光の動向

●国は成長戦略の柱として観光を位置づけ、日本を「観光先進国」とするための様々な取組を推進しており、平成28年3月に策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」においては、令和12年までの数値目標を立て、目標達成に向けて官民一体となって観光立国を実現することを目指している。

#### (1) 新型コロナウイルス感染症拡大前

●令和2年版観光白書によると、令和元年の日本人の国内宿泊旅行者数は延べ3億1,162万人、国内日帰り旅行者数は延べ3億7,548万人。また訪日外国人旅行者数は3,188万人となり7年連続で過去最高を更新。

#### (2) 新型コロナウイルス感染症の影響

##### ① 観光トレンドの変化

- 旅行形態の変化(マイクロツーリズム、個人旅行など)
- 新たなニーズの高まり(アウトドア等の自然体験、文化・暮らしを体感する滞在型観光など)
- 官民一体の新たな取組(新たなコンテンツ造成等)

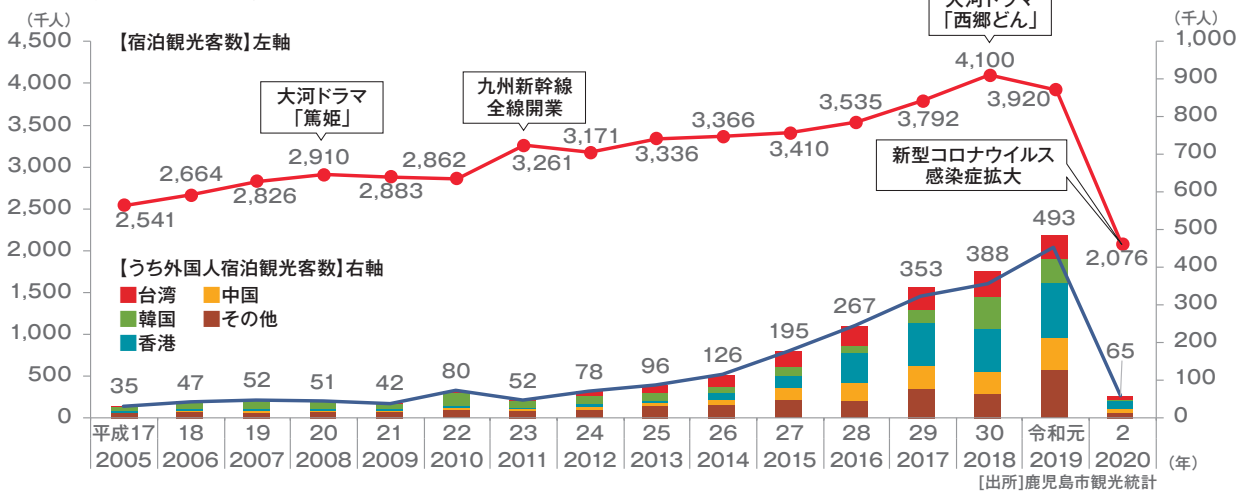
##### ② インバウンドの回復時期

●国連世界観光機関の令和4年1月の発表によると同専門家委員会の約4割の委員が令和5年までに、約6割の委員が令和6年以降に、コロナ前の水準に国際観光が回復すると見込んでいる。

### 2. 本市の観光の動向

●平成30年には宿泊観光客数が過去最高、また令和元年には外国人宿泊観光客数が過去最高になるなど、堅調に推移していたが、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により、いずれも激減。

図2 鹿児島市宿泊観光客数の推移



## 第3章：本市の観光に関する課題

### 1. 第3期戦略の総括

- 戦略に基づく各種事業の推進により、第3期戦略で設定した数値目標の達成に向けて概ね堅調に推移してきたことは評価できると考える。
- 一方で、今後は、アフターコロナの中長期的な観光トレンド等を考慮して施策を推進する必要がある。

### 2. 課題

●第3期戦略の評価、近年の社会経済情勢や観光動向、SDGsの視点等を踏まえ、次の5点を課題として整理した。

- (1) 地域全体での推進体制づくり、持続可能な観光地づくり
- (2) 消費単価UPを念頭に置いた地域特有の魅力創出、「量」から「質」への転換
- (3) マーケティングに基づくデジタルを駆使した誘致・プロモーション
- (4) 危機事象対応強化を含む受入体制の充実
- (5) 地域経済循環の推進を意識した経済政策としての観光振興

1. 基本目標



訪れる人の感動・暮らす人の幸せをつくる“稼ぐ観光”の実現

～ 世界を魅了するまち KAGOSHIMA ～

2. 計画期間

令和4年度～令和8年度

3. 数値目標

■KGI (Key Goal Indicator:最終的な目標指標)

	令和元年 (参考)	令和2年	令和8年 (目標値)	対令和2年比 (対令和元年比)
経済波及効果	2,057億円	830億円	2,200億円	1,370億円増 (143億円増)

■KPI (Key Performance Indicator:KGI達成に向けた重要指標)

	令和元年 (参考)	令和2年	令和8年 (目標値)	対令和2年比 (対令和元年比)	
観光消費額	1,495億円	604億円	1,600億円	996億円増 (105億円増)	
宿泊観光客数 ※令和元年は 万の位で四捨五入	390万人	207.6万人	400万人	192.4万人増 (10万人増)	
	日本人	340万人	201.1万人	340万人	138.9万人増 (—)
	外国人	50万人	6.5万人	60万人	53.5万人増 (10万人増)
1人1泊あたりの 観光消費額	28,800円	(R元) 28,800円	31,000円	2,200円増 (2,200円増)	
	日本人	28,500円	20,500円	30,000円	9,500円増 (1,500円増)
	外国人	30,700円	(R元) 30,700円	33,000円	2,300円増 (2,300円増)
再訪の意向	60.40%	72.30%	100.00%	—	
推奨の意向	51.30%	46.30%	100.00%	—	

## POINT

### ■「稼ぐ観光」の考え方

観光産業の需要増により、観光分野の雇用創出や経営革新が期待され、観光が本市経済を安定的に支える産業の一つとなること、それが「稼ぐ観光」の趣旨であり、第3期戦略に引き続き、その実現を目指す。

### ■「稼ぐ観光の実現」のために

#### ① 経済波及効果の最大化

経済波及効果の最大化には、観光客数(=「量」)に消費単価(=「質」)を掛け合わせることで算出される観光消費額を高めることや、市内(県内)の食材等を活用し地域経済循環を高めることが重要。

#### ② 観光客数の増加

年間を通じた集客力の高いイベント等による国内外からの観光客数(宿泊・日帰)の増加に加え、より深く鹿児島を味わっていただくことで、滞在日数(延べ宿泊観光客数)を増やし、また、顧客満足度向上や鹿児島ファン拡大により再訪につなげることが重要。

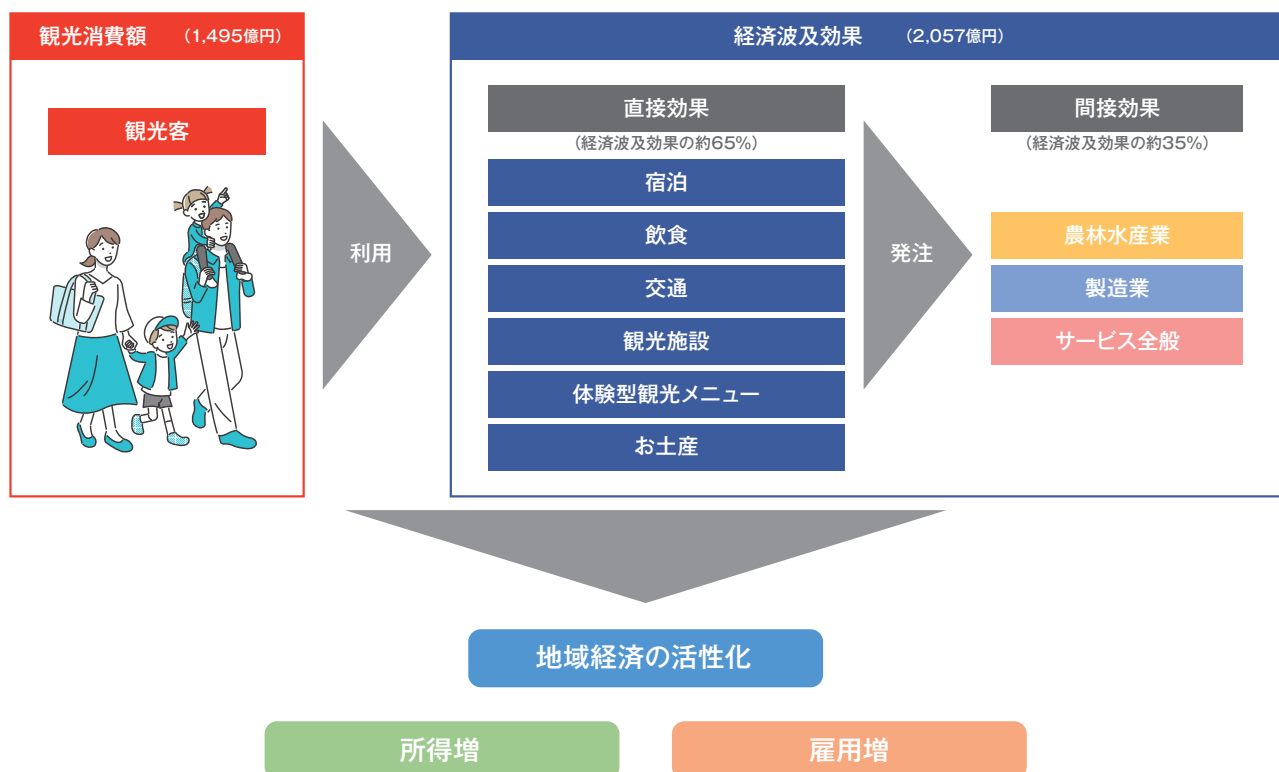
#### ③ 消費単価の増加

高付加価値化・差別化、価値に応じた価格設定や少しでも長く鹿児島に滞在していただくことで、消費単価(宿泊・日帰)の増加を目指すことが重要。

#### ④ 地域経済循環を高める

消費されるサービスの農産品を含む原材料の生産や加工、販売の各段階が市内(県内)で行われることが、地域への波及効果を高める。地域内の連関(域内調達率)を高め、オール鹿児島のサービスを提供することは、地域経済への好影響があるだけでなく、鹿児島らしさの提供にもつながる。

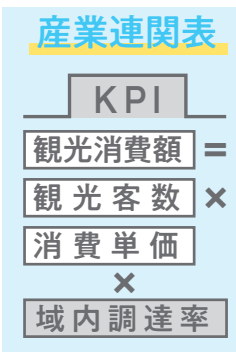
### ■ 観光による経済波及効果のイメージ



※括弧内は令和元年の推計値



訪れる人の感動・暮らす人の幸せをつくる“稼ぐ観光”の実現  
 世界を魅了するまち KAGOSHIMA



### 第4期観光未来戦略で新たに導入

- 観光を経済政策として位置づけ  
 ⇒数値目標・経済波及効果  
 ⇒観光基板の強化に向け「稼ぐ体制・仕組づくり」、「5地域経済循環の促進」を基本戦略に追加
- PDCA:CAを重点的に取り組む
- データに基づく政策立案・EBPM(経済波及効果でイベントを評価)
- SDGsへの取り組み

8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
11 住み続けられるまちづくりを	17 パートナーシップで目標を達成しよう

### 基本戦略

**1**  
**稼ぐ体制・仕組づくり**  
 ~協働のプラットフォームの構築~

**2**  
**オンリーワンの魅力創出**  
 ~世界を魅了する鹿児島品質の提供~

**3**  
**戦略的な誘客促進**  
 ~マーケティングを駆使したプロモーション~

**4**  
**ホスピタリティあふれる受入体制の充実**  
 ~すべての人に安心・快適な観光都市~

**5**  
**地域経済循環の促進**  
 ~地消地産の促進~

### 基本方針

- (1)組織体制の強化
- (2)マーケティングによるニーズ把握・分析
- (3)マーケティング・マネジメントに精通した高度な観光人材の育成
- (4)接続可能な観光地づくり

- (1)キャッシュポイント(商品)づくり、高付加価値化・差別化(今だけ、ここだけ、あなただけ)
- (2)鹿児島ならではの多様なツーリズムの展開

- (1)戦略的なプロモーションの展開
- (2)MICEによる誘客促進
- (3)観光クルーズ船の誘致・受入

- (1)おもてなし人材の育成
- (2)世界標準の受入・案内機能の充実
- (3)新しい生活様式に対応した安心安全な観光・観光危機管理の推進

- (1)地域経済循環を高める

## コア・プロジェクト アフターコロナ・リカバリープロジェクト ～インバウンド～

- ① インバウンド誘客に向けた魅力づくり
- ② 幅広い視点による誘客
- ③ 安心して観光できる受入環境の整備

### 施策

- ① 官民連携のPDCAサイクルを回す体制づくり
- ② 登録DMOの設立

- ① 地域マーケティング(観光CRM)によるニーズ把握・分析
- ② 観光消費額調査、国・県・民間の調査の活用

- ① マーケティング・マネジメントを担う高度な観光人材を育成する体制づくり

- ① 観光事業の多角化・新たな財源確保の検討
- ② SDGsの取組の推進

- ① 世界文化遺産の活用や桜島・錦江湾ジオパークの取組の推進
- ② 自然、歴史、文化、食、温泉などの魅力を活用した体験型観光の推進
- ③ 海や川を生かした回遊性向上の検討
- ④ 観光拠点の再生・高付加価値化
- ⑤ 効果的な広域連携の推進
- ⑥ 誘客力のある観光イベント(夜間・早朝を含む)の創出・充実
- ⑦ 観光施設の魅力づくり
- ⑧ リバーサイドの活用検討

- ① 魅力あるスポーツコンテンツの充実
- ② にぎわいの核となる施設の充実
- ③ グリーン・ツーリズムの推進
- ④ 本市観光資源を生かしたニューツーリズムの推進

- ① 国内外からの誘客につながる効果的なプロモーションの展開
- ② 鹿児島ファンと連携した観光プロモーションの推進

- ① 多様なMICEの誘致・受入の推進
- ② フィルムコミッションの推進

- ① 大型クルーズ船の誘致・受入

- ① 高いスキルの観光ガイドの育成
- ② 市民ぐるみのおもてなしの推進

- ① 観光案内機能の強化
- ② 多言語化など外国人対応の充実
- ③ 食の多様性など各市場に応じた受入体制の充実
- ④ ユニバーサルツーリズムの推進
- ⑤ 磯新駅設置の促進など二次交通の充実

- ① 新型コロナウイルス感染症対策の促進
- ② 危機事象における観光客への対応強化
- ③ 風評被害への対応強化

- ① 地消地産の促進
- ② 観光関連事業者及び多様な関係者の所得増
- ③ マイクロツーリズムの促進

### 主な取組

- ナイトタイムエコノミーの推進(再)
- 市場のニーズを踏まえた効果検証可能なプロモーション(再)
- 高いスキルの観光ガイドの育成(再)
- インバウンド向けフードダイバーシティ(食の多様性)推進(再) など

### 主な取組

- 観光未来戦略総会議(仮称)の設置
- 登録DMO設立に向けた体制強化
- 観光CRM(アプリ等)の推進
- かがしま観光未来塾(仮称)の設置 など

### 主な取組

- 世界文化遺産の活用の推進
- 桜島・錦江湾ジオパークの取組の推進
- 体験型観光メニューの充実に向けた取組
- ナイトタイムエコノミーの推進
- 誘客につながる九州内や県内の観光都市・地域との連携の充実
- 誘客力のある観光イベントの創出・充実
- リバーサイドの利活用の検討
- 特別国民体育大会・特別全国障害者スポーツ大会の開催
- サッカー等スタジアムの整備検討
- ブルーツーリズムの推進、サイクルツーリズムの推進 など

### 主な取組

- 市場のニーズを踏まえた効果検証可能なプロモーション
- MICEやクルーズ船の経済効果拡大に向けた取組
- 市長トップセールスの実施
- フィルムコミッションの推進 など

### 主な取組

- 高いスキルの観光ガイドの育成
- シビックプライドの醸成
- 観光案内所の充実
- インバウンド向けフードダイバーシティ(食の多様性)推進
- ユニバーサルツーリズムの推進
- 新たな生活様式への対応、安心、安全の情報発信 など

### 主な取組

- 域内調達率のサンプル調査
- 観光未来戦略総会議(仮称)における意識啓発
- 観光CRM(アプリ等)の推進(再) など

# 第4期鹿児島市観光未来戦略

概要版

KAGOSHIMA CITY